

町政を問う

一般質問とは

議員が町政全般にわたり、執行機関（町長・教育長など）に疑問点をただし、所信の表明を求めることです。



長崎 厚 議員

自治体が養成する防災士を 5



柏倉恵里子 議員

認知症サポーターの育成を 6



大谷敏弥 議員

これまでの質問の進捗状況と対応は 7



高森功治 議員

長万部高等学校の将来像をどう考える 8

定例会2日目、4人の議員より一般質問が行われました。
その内容を要約してお知らせします。

※全文は町ホームページからご覧になれます。

[町ホームページトップ](#) → [町議会](#) → [会議録](#)

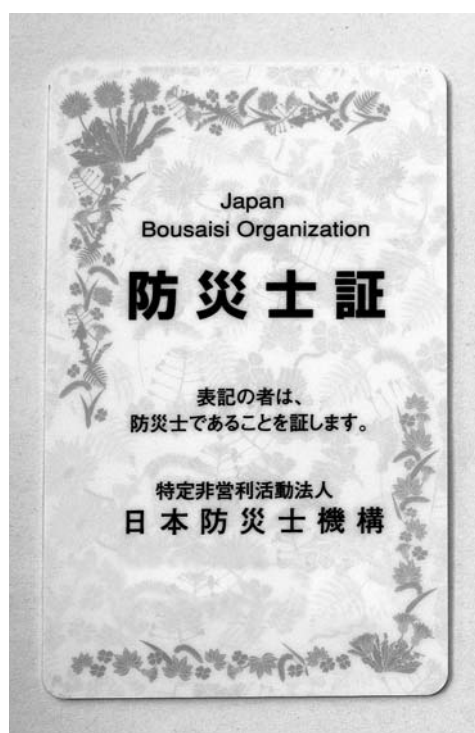
自治体が養成する防災士を

(町長) 資格取得に向けた気運づくりに努める

長崎 長万部町では全町規模で防災訓練が行われており、危機管理に対し強い認識があると思っている。また、避難所に退避時には「もれなく」救助する事が求められる。多くの自治体では地域防災力向上に取り組みされており、正しい認識を持つリーダーが必要となる。各地域に防災士を養成することで、災害発生時にはもちろん、訓練を通じて地域防災力が向上する。公民館や学校施設など町内で防災講演・指導により効率よく防災士の養成が可能になる。当町でも検討してはどうか。

一方、道内においては、防災の基本とされる「自助・共助・公助」の適切な役割分担を推進するため、北海道が事業主体となり「北海道地域防災マスター」の育成に取り組んでいる。この防災マスターは、ボランティアによる地域の防災活動のほか、災害時には地域の防災リーダーとして活躍していたくもので、官公庁OBをはじめ、自主防災組織や町内会の役員など、地域で防災活動に積極的に取り組んでいる方々を認定対象とするものである。防災マスターの認定研修会は、道内各地を会場に年4回ほど開催され、参加費用の負担もないことから、積極的な制度活用により地域の防災力向上を図りたい。また、防災士についても資格取得に向けた気運づくりに努めたい。

長崎 当町でもこの講



防災士証

演を行ってはどうか。北海道では年4回ほど開催されているわけだが、このNPO法人日本防災士機構、これは確かに歴史はそんなに長くないが、平成16年度に1581人だった資格取得者が、現在では10万人を超えており、防災士の必要性が求められている。当町でも消防士や職員が資格を取っていると思うが、講習会のようなものを公民館等で町民に対し開催しては。

生命、財産を守るという信念を持って町政にあたっている。現在、長万部に防災士は3人、防災マスターは8人登録されているが、これは各個人がそれぞれ任意で資格を取得している。公で養成をしたというのではなく、自らが勉強をして防災士の資格や防災マスターの資格を取られた。今後、地域会館や各町内会の自主防災組織を立ち上げる段階での講習、講演に力を貸していただければと考えている。

— 柏倉恵里子 議員 —

認知症サポーターの育成を

(町長) 養成講座などの取り組みに
力を注いでいきたい

柏倉 長万部町で一人暮らしの元気な方が認知症になった場合、全てのサービスを使っても一人の方を守れない状況がうまれている。

例えば、認知症と診断されるまでの期間、認知症と判断され介護認定がおりるまでの期間、介護認定がおりてからサービスが開始され、施設入所までの期間、およそ1年かかる。この間、実に様々な事が起きていて、大事に至ってないので良かったのだが、身内がそばにいないので身内のように寄りそう方の存在が必要だ。私の経験からすると、一人の方に三人のサポーターが必要だ。しかも出来るだけ近くに住んでいることが望ましい。

認知症サポーターキャラバンのホームページでは、平成28年12月31日現在、長万部町に180人のサポーターがいること

になっている。活動状況が見えないし紹介されたこともない。組織として立ち上がってなければ早急に立ち上げを。また、活動出来るサポーターが必要だ。毎年、育成者を増やせるような取り組みが必要と思う。これが出れば、地域包括ケアシステムへの移行もスムーズに出来ると思う。町長の所信を伺う。

町長 少子高齢化が進み、本町においても独居高齢者や認知症高齢者が増加傾向にある。住民参加による地域づくりを通じて、地域住民の社会的孤立を防ぎ、認知症になっても可能な限り住み慣れた地域で暮らし続けられるよう、高齢者の生活全般を支える仕組みづくりが必要であると考えている。その基礎づくりとして、認知症について正しい知識と理解を持ち、地域で認知症の人やその家

族に対して温かい目で見守る。さらには近隣の認知症の人や家族に対して、自分なりにできる簡単なことから実践していただけるような認知症サポーターを多く育成するため、サポーター養成講座などの取り組みに力を注いでいきたい。また、その中から地域を担う組織づくりやボランティア活動が進んで行くことを期待する。

柏倉 現在、長万部町で施設入所ではなく、在宅で認知症と診断をされている方は何名か。

町長 2月現在、65歳以上介護認定者が497名。うち認知症の症状のある方は234名。

柏倉 認知症発見のひとつに、金融機関やコンビニで支払い等をする時の間違いがある。今までできていた事ができなくなったたりする。そんな時に金融機関等から一報を

入れてもらい、地域包括が訪ねてみるなどの連携は取れているか。

町長 色んな関係機関に話しており、地域包括の方にも話はあると思う。

柏倉 認知症と診断されると必ず投薬が始まる。間違いなく飲むためにはサポーターが必要だ。

町長 サポーターの活動、活躍は大変なことだと認識している。色々なことを含め検討課題としたい。



認知症サポーターカード（1枚30円、送料別途）

―大谷 敏弥 議員―

これまでの質問の進捗状況と対応は

(町長) 状況に応じ取り組んでいる

大谷 これまでの質問について確認する。

1、少子化対策・子育て支援策は。

答弁、長万部町の身の丈に合った子育て支援を実施して行きたい。

2、人口減少対策として移住定住促進・企業誘致の具体的な取り組みは。答弁、1人でも多く長万部町に来ていただける

よう、企業誘致と雇用の拡大に取り組む。

3、各集会所に「手すり」の設置を。

答弁、要望を聞きながら検討する。

以上3点について、進捗状況と対応は。

町長 1点目については、平成28年度から妊産婦健診通院費の一部補助を実施し、また、町立保育所の第2子以降の保育料を無料とした。

さらに平成29年度においては、第2子以降の保育料等を民間の保育園、幼稚園にも対象を拡大し実施したい。

2点目については、搾乳などを行う農業支援員1名を新たに募集し、将

来の新規就農につながるよう、様々な形で支援していきたい。さらに、町外の方へ求人情報を提供する手段として、町ホームページにおけるバナー

広告の掲載を開始したほか、町内の空き家情報を掲載した、おしゃまんべ家さがしウェブを随時更新するなど環境づくりに努めている。引き続き、移住者に対する建築住宅の補助のあり方について

検討し、移住定住促進に向けた取り組みを着実に進めている。

企業誘致については、母豚を千頭規模で一貫生産する長万部ちらい農場が、平成30年春の完成を目指し建設が進められて

いるほか、豊津地区にトンネル工事の現場宿舍が建設される。今年6月には鉄道運輸機構の鉄道建設所や寮が完成する予定である。来年度には新幹線駅の高架形式への変更認可が見込まれており、さらなる新幹線工事関連企業の進出が期待されることから、企業誘致と雇用の拡大に向け積極的に取り組んでいく。

3点目については、要望のあった南栄老人憩の家には昨年5月に設置し、陣屋生活館は3月中旬に設置を予定している。また、来年度も状況に応じ対応する。

大谷 ホームページの家さがしウェブ等には、何件くらい問い合わせがあったか。また、移住定住につながったか。

まちづくり新幹線課 問い合わせは9件あり、そのうち1件が移住した。

大谷 町に人を呼び込

むため、1戸だけでも町が買い上げて内装を改装し、移住定住促進に向けた取り組みとして長万部移住生活体験制度を設けては。

町長 先ほど答弁したとおり、引き続き移住者に対する建築住宅の補助について検討し、移住定住促進に向けた取り組みを着実に進めたい。

意見書を提出しました

意見書1件を原案どおり可決し、関係機関へ送付しました。

◇地方議会議員の厚生年金制度への加入を求める意見書



— 高森 功治 議員 —

長万部高等学校の将来像をどう考える

(教育長) 魅力ある学校づくりを
全面的に支援したい

高森 長万部高校は町内唯一の高校であり、長万部や黒松内のこれからの地域づくりの主役を担う人づくりの根幹でもある。東京理科大学の特別推薦枠まで持っているが、高校の将来が心配である。平成29年度の長万部高校への出願者数は17名と新聞報道にあった。長万部中学校の今春卒業予定者は38名とのことだが、そのうち長万部高校への出願者数は。

教育長 長万部中学校からの出願者数は12名である。昨年度は、長万部中学校卒業生の52%が長万部高校に進学したが、今年度は31%の受験者数であった。平成18年度以降、50%を割り込んだ年度はなかったため、大変危惧している。

長万部高校は平成28年度から地域キャンパス校となっている。これは、他の学校への通学が困難な地域を抱え、かつ地元からの進学率が高い第1学年1学級の高校を地域キャンパス校として、センター校（八雲高校）からの出張授業や通信機器を活用し、教育活動を支援していく制度である。

現在、長万部高校PTA・同窓会に「長万部高校の教育を地域とともに考える会（仮称）」設立の動きがあり、長万部高校の魅力ある学校づくりを教育委員会としても全面的に支援・推進していかなければならないと考えている。小中学生に長万部高校の魅力を体感させ、進学したいと思えるような取り組みを強化したい。

高森 今年は近隣市町への生徒流出が多い。キャンパス校になったマイ

ナスイメーで、長万部高校を敬遠したのでは。また、キャンパス校指定は、今後の再編や廃校につながるのでは。

教育長 マイナスイメージはなく、部活動や広い人間関係を求めて自宅から通学可能な近隣市町の高校を志望している。道教委は地元の進学率や地域性を考え、学校を残すために地域キャンパス校制度を始めたが、人口減少や地方創生の観点から、その在り方や教育環境の整備を含め検証検討を進めている最中である。平成27・28年度は検証期間中のため、募集停止や見直しはない。

高森 理科大があるのだから、理数に特化した学科や英語に特化した学科、または、福祉や介護の学科を高校に設けては。

教育長 道立高校のこれまでの学科転換はかなり厳しく、学科変更をして

も再び普通科に戻した学校が全道的にいくつもあ。そして本町の子供達全員がその学科を希望するかも問題になる。入しやすい、選択しやすいということを考えれば、今の普通科の高校の学校づくりを全面的に支援したい。

高森 総合教育会議は、町長の権能のもと教育行政に関与する立場だが、町長の考えは。

町長 長万部高校存続のために通学費補助等行ってきたが、まだ努力が足りないと感じた。今後は、総合教育会議でもこの課題を取り上げ、さらに真剣に取り組んでいく。



長万部高等学校